

■第2小委員会議事録

委員名：寺戸博道委員、和泉育志委員、山越正人委員、浅香勉委員、宇梶誠司委員

【基本目標1】相談支援の充実 評価結果：B

◆施策の方向性1 分野横断的な包括的支援体制の整備 評価結果：B

◆施策の方向性2 多機関との協働・連携 評価結果：B

◆施策の方向性3 相談支援体制の充実 評価結果：B

◆施策の方向性4 情報提供の充実 評価結果：B

◆施策の方向性5 権利擁護活動の推進 評価結果：B

(意見)

委員：いろいろ相談窓口の体制ができていの中で、社会福祉協議会を案内することがある。

委員：多機関との協働・連携では、「社会福祉法人連携事業」がC評価になっているが、どのような進捗だったのか。

事務局：社会福祉法人が集まる機会は無かった。社会福祉法人に何か所か聞取りは行ったが、新たな取組には至らなかった。今年度もいくつかの法人にアンケートをする予定である。連携事業の目的として災害時の対応などが挙げられている。

委員：昔は情報が入ってこなかったため当事者の会を作って情報を収集していた。今はSNSなど情報を入手できるようになってきている一方で世代間交流が減少している。若い会員が減少し会員を増やすことが難しくなっている。今後立ち位置や継続について考える必要がある。

委員：学校と子育て相談課との連携はできている。家庭が相談先を分かっているかは疑問がある。学校間の連携や相談機関との連携はできているが、学校規模の違い、地域の差があるので、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの回数が増えるとよい。

委員：子ども・子育て会議では地域で孤立している子育て家庭やシングルペアレンツ、ヤングケアラーの支援において、どのような相談支援機関と連携がとれるかが課題となっている。解決課題を抱えた家庭と地域、社協などの関わりを作らないとますます孤立してしまう。民生委員児童委員の地域の活動、父母の会の世代間の連携、スクールソーシャルワーカーの派遣など子育て制度に関する窓口、制度があるが、当事者の保護者が使いやすい制度に至っていない。人口規模に比べて、相談機関とアクセスできていない家庭が潜在的にあるのではないかな。

【基本目標2】社会参加の促進 評価結果：B

◆施策の方向性1 制度の狭間にある人への社会参加支援 評価結果：B

◆施策の方向性2 孤独な人・孤立している人への社会参加支援 評価結果：B

◆施策の方向性3 日常生活で支援を必要とする人への社会参加支援 評価結果：B

(意見)

委員：こども夢クラブで、ある例で上は小学生、下は未就学児で多動あるため参加を断ったら、上の子が下の子の面倒をみることになり解決にならないことがあった。参加してもらいたいが、参加できない子どもがいる。地域学校協働本部に主任児童委員を入れてもらい、学校が持っている課題を共有している。学校と地域の連携では、協力者はいつも同じ人で連携が広がらないため、地域の人にもっと参加してもらいたい。

委員：身障者から見た社会参加では、障害の程度が異なるため軽い方は利用できる場があるが重度障害だと入れる場がない。子どもたちが参加できる場所をどう見つけていくかが課題。入所施設がないと生きていけない人もいる。乳幼児の健診で障害や発達で引っかかる人が多いので、早期支援のため道筋がつけられるような施策があるとよい。

委員：地域学校協働本部はますます重要と思う。主任児童委員がメンバーに入っている話があったように、委員の選定も重要である。

委員：委員選びの工夫はどのようにされているのか。若年層の参加難しい。うまくいっている自治体では、若者と女性の意見が取り入れられている。そこをどうしていくかが那須塩原市の課題と思う。障害のある方の社会参加については、受け皿がない状況で地域に移行を考える前に地域の理解を進めないと社会参加に至らない。

【基本目標 3】地域づくり（地域力の強化） 評価結果：B

◆施策の方向性 1 地域で支え合う仕組みづくり 評価結果：B

◆施策の方向性 2 安全・安心なまちづくりの推進 評価結果：B

◆施策の方向性 3 交流の場・活躍の場づくりとボランティア・市民活動の推進 評価結果：B

（意見）

委員：私の地域では、自治会加入率が 35%程度。新しく住宅できても自治会に入る人はいない。どのように地域に呼び込むのか。地域でどうするか対応することは難しい。民生委員で未加入者をみることも大変である。

委員：自治会、コミュニティの考え方を見直さないと若者は入らない。

委員：若い人間の考えを取り入れることは重要。学校と地域の会議ではマンネリ化して意見を取り入れていくことが困難になっている。地域学校協働本部に三島地区では20代の若者をメンバーに入れている。

委員：先進事例では、子育ての講演会で、育児のベテラン講師を招いて、市・社協がバックアップして、認知症高齢者も参加し世代間の交流、学校からボランティアも参加している。